

2024年11月1日

関係各位

野村ホールディングス株式会社
 コード番号8604
 東証プライム市場・名証プレミア市場

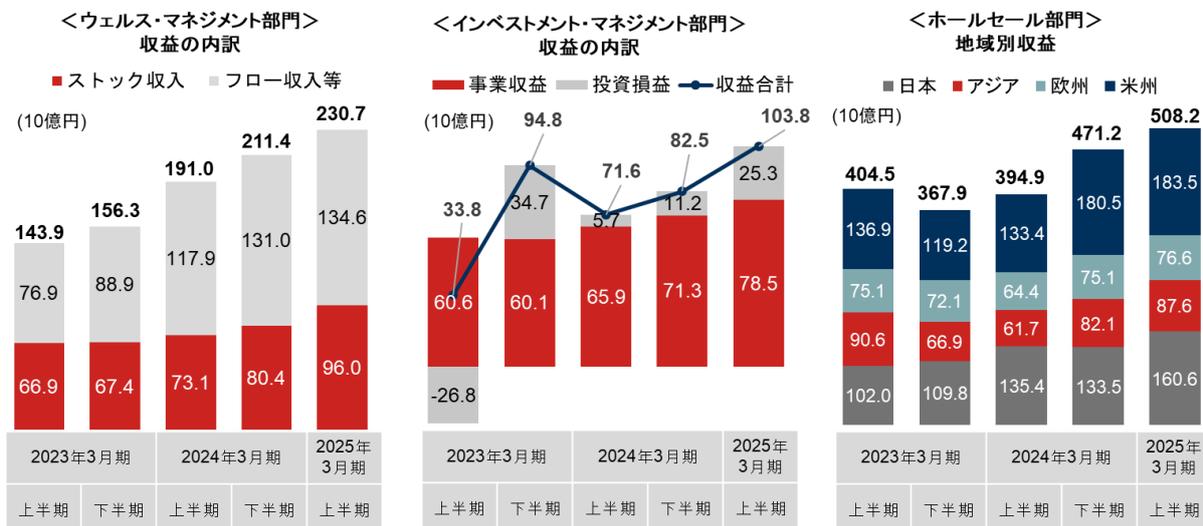
奥田グループCEO決算コメントおよびハイライト (2025年3月期第2四半期連結決算)

野村ホールディングス株式会社(代表執行役社長 グループCEO:奥田健太郎、以下「当社」)は2025年3月期の上半期(2024年4-9月、以下「当上半期」)および第2四半期(2024年7-9月、以下「当四半期」)の連結決算概要をお知らせします。

当上半期の収益合計(金融費用控除後)は9,378億円(前年同期比31%増)、当期純利益は1,673億円(同186%増)、ROEは10.1%となりました。また、当四半期の収益合計は4,833億円(前四半期比6%増、前年同期比31%増)、当期純利益は984億円(同43%増、179%増)、ROEは11.6%でした。

グループCEOの奥田健太郎は以下のように述べています。

「当上半期は、主要3部門すべてで収益を伸ばし、加えて費用を抑制した結果、前年同期比で大幅な増益となりました。これは、これまでの中長期的な取組みの成果として、安定収益の積み上げと収益の多様化が顕在化したものであり、現在進めている戦略の方向性に対する自信を深めています。ウェルス・マネジメント部門ではストック収入が過去最高を更新し、9年ぶりの高い利益水準となりました。インベストメント・マネジメント部門では過去最高の事業収益に投資損益の改善も加わって利益が倍増、ホールセール部門ではすべてのビジネスラインと地域で収益が伸長、コスト・コントロールが徹底されたことで利益が大幅に回復しました。引き続き、日本のフランチャイズを活かしたグローバル戦略の深化を通じて、安定的にROE 8~10%+を達成するべく挑戦を続けていきます」



決算ハイライト

<当上半期>

全社

- 全社税前利益は2,359億円となりました。
- 当上半期のEPSは54.58円、ROEは10.1%でした。
- 2024年9月末日を基準日とする配当金(支払開始日:2024年12月2日)は、1株当たり23円です。

	2025年3月期上半期	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	9,378億円	+31%
税前利益(損失)	2,359億円	+129%
当期純利益(損失)	1,673億円	+186%

主要3部門

- ウェルス・マネジメント部門は、資産管理型ビジネスへの取組みが浸透し、ストック収入は前年同期比で3割増加、税前利益は9年ぶりの高水準となりました。
- インベストメント・マネジメント部門は、事業収益が2021年4月の部門設立以降で最高となり、投資損益も改善して、税前利益は前年同期比で倍増しました。
- ホールセール部門はすべてのビジネスライン、すべての地域で収益が伸長する一方、コスト・コントロールを徹底し、業績が大幅に回復しました。

	収益合計(金融費用控除後)		税前利益(損失)	
	当上半期	前年同期比	当上半期	前年同期比
ウェルス・ マネジメント部門	2,307億円	+21%	875億円	+68%
インベストメント・ マネジメント部門	1,038億円	+45%	551億円	+105%
ホールセール部門	5,082億円	+29%	664億円	6.4倍
合計	8,427億円	+28%	2,091億円	+134%

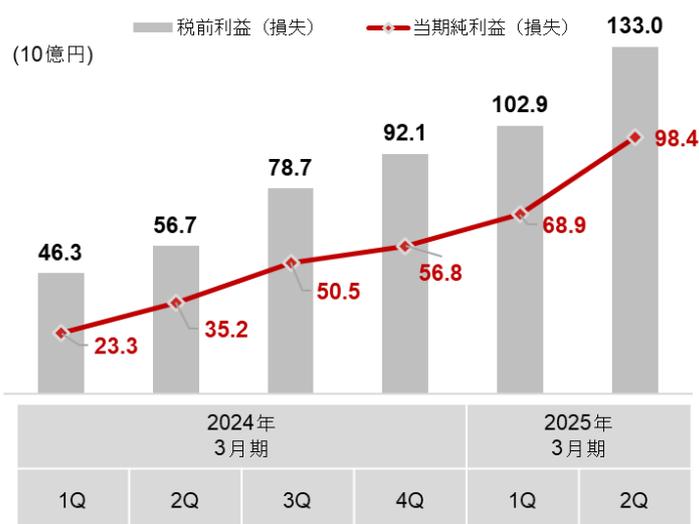
<当四半期>

全社

- 税前利益は1,330億円(前四半期比29%増)、当期純利益は984億円(同43%増)でした。
- 当四半期のEPSは32.26円、ROEは11.6%でした。
- 主要3部門の税前利益は1,225億円(同42%増)、6四半期連続で増益を達成しました。
- 主要3部門以外では、経済的ヘッジ取引に関連する利益(18億円)やデリバティブに関する自社およびカウンター・パーティのクレジット・スプレッドの変化に起因する利益(10億円)などにより、137億円の税前利益となりました。

	当四半期	前四半期比	前年同期比
収益合計 (金融費用控除後)	4,833億円	+6%	+31%
税前利益(損失)	1,330億円	+29%	+134%
当期純利益(損失)	984億円	+43%	+179%

全社の税前利益(損失)、当期純利益(損失)

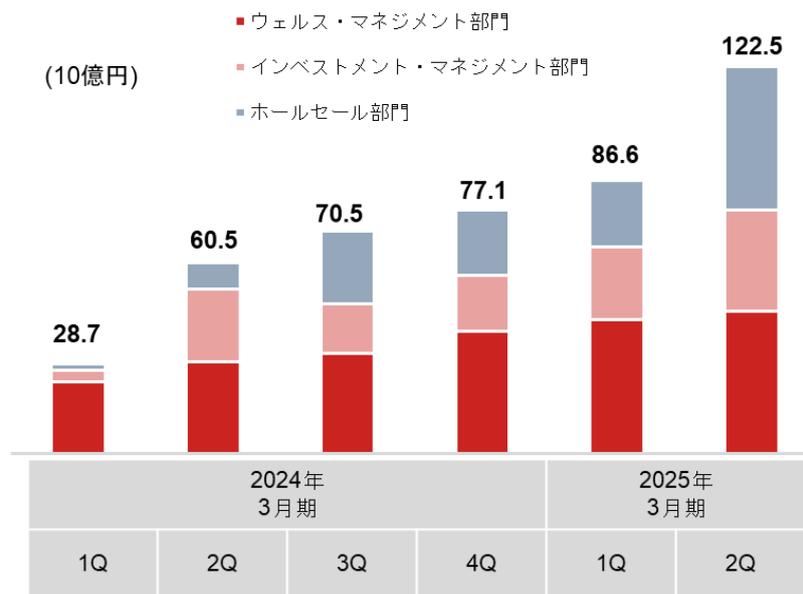


主要3部門

- ウェルス・マネジメント部門は、ボラタイルな市場環境下、領域別アプローチや資産管理によるストック型ビジネス拡大への取組みが進捗し、ストック資産純増(4,383億円)が拡大、ストック収入は過去最高を更新し、増益モメンタムを維持しました。
- インベストメント・マネジメント部門は、投資信託ビジネス、投資顧問・海外ビジネスともに資金が流入し、資金流入は1.1兆円と高水準でした。プライベート・アセットへの取組みも進捗し、市場要因(円高進行)があるなかでオルタナティブ運用資産残高は2兆円台を維持しました。
- ホールセール部門では、グローバル・マーケットはマクロ・プロダクトやエクイティ・プロダクトが増収、インベストメント・バンキングは日本ECM案件を多数サポートし、欧州では大型M&A案件が増収に貢献しました。収益を伸ばすなかで費用を抑制し、経費率は83%に改善しました。

	収益合計(金融費用控除後)			税前利益(損失)		
	当四半期	前四半期比	前年同期比	当四半期	前四半期比	前年同期比
ウェルス・マネジメント部門	1,167億円	+2%	+18%	453億円	+7%	+56%
インベストメント・マネジメント部門	561億円	+18%	+24%	319億円	+38%	+38%
ホールセール部門	2,634億円	+8%	+29%	453億円	+114%	5.5倍
合計	4,362億円	+7%	+25%	1,225億円	+42%	+102%

主要3部門税前利益(損失)



【ご参考】

[野村ホールディングス株式会社 2025年3月期第2四半期\(中間期\)決算短信\[米国基準\]\(連結\)](#)
[2025年3月期第2四半期決算説明資料 米国会計基準\(US GAAP\)](#)
2024年11月1日付ニュースリリース「[剰余金の配当に関するお知らせ](#)」

以上

詳細につきましては、[当社ホームページ](#)にて掲載の決算短信および決算説明資料をご覧ください。また、本日(2024年11月1日)午後6時30分より、決算説明会(テレフォン・カンファレンス)を開催する予定です。この模様は、[当社ホームページ](#)を通じてライブ配信します。

本資料は、米国会計基準による2025年3月期第2四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされています。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。

本資料は将来の予測等に関する情報を含む場合がありますが、これらの情報はあくまで当社の予測であり、その時々状況により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。